

最上川の旅立ち  
は米沢の御とひらき  
まほらばの  
山々の流れは染  
本流となら

松立より  
柿王と矢

『旅立ち』浦生直英(混声合唱組曲)最上川の四季―旅立ち(より)

# 長井の心 詩と風景

2021年 9月1日(水) → 10月31日(日)

休館日: 月曜日・月末日 (9月20日は開館し、翌日休館、10月31日は開館)

開館時間: 10:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

会場: 丸大扇屋 内蔵・新蔵

入場無料



# 長井の心

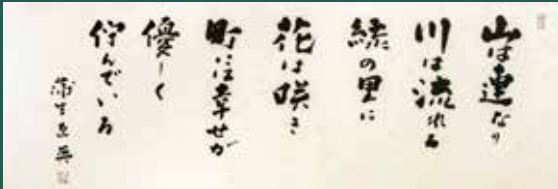
新らしい長井橋の上に立て  
 周囲の景色を眺め更にも  
 も美し大空を静けりをも  
 見直した方々多し  
 毎に  
 橋の上は自然の中  
 生る風俗習慣は  
 平和を愛し共存も尊ぶ  
 心の表れもなす  
 人は日頃人間形成の最  
 重要なる条件は故里の  
 自然環境と風俗習慣  
 である未だ活ます  
 長井に生る長井の心で  
 育つ事と誇りと感謝  
 して活ます  
 昨今世期末的倫理の  
 崩壊が叫ばるる時  
 二十世紀に向けて長井の心  
 を世界へ心の原と夫として  
 大なる役割を果す  
 思ひます  
 長井の心は世界の宝  
 大切にしよう  
 平成元年  
 十一月三日  
 長沼孝三

長井の心/1989年/長沼孝三書

## 長井の風景を表現した郷土作家たち

長井市で生まれ育った彫刻家・長沼孝三は、自筆の『長井の心』と題された文章の中で、橋の上から見る長井の風景を『世界の宝』であるとして讃えています。一方で、西山と東山に囲まれ、その間を最上川が流れる長井の地形は、十八世紀に李氏朝鮮の地理書『沢里志』で記述された『楽土』の条件を満たしており、人間形成にとって理想的な環境であると言われています。そのような風土のもとで生まれた作品を通じて、今も長井の人々の中に息づく『長井の心』について考えます。

出品作家：奥山明甫、蒲生直英、菊地隆知、金裕赫、佐藤終坡、渋谷円吉、島貫洋、菅原白龍、孫田秀春、大道寺吉次、内藤潤三、長沼孝三



上：『最上川 A』菊地隆知、木版／中右：『長井十景其ノ一・野川雪景』渋谷円吉、油彩／中左：『やや遠くなりし〜』大道寺吉次／下：『緑の里』蒲生直英

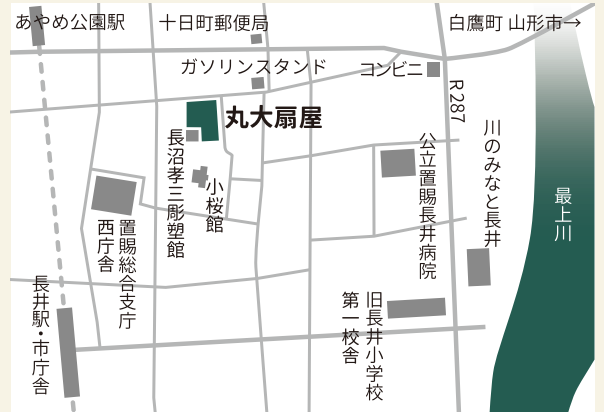
### 開催予告 長沼孝三彫塑館第3期収蔵品展

### 怪の連作～長沼孝三の思想と表現～ 9月14日～12月26日

丸大扇屋で生まれた彫刻家・長沼孝三が人間や社会を風刺的に表現した『怪』シリーズの彫塑作品を中心に、レリーフや作家資料、また長沼孝三に届いた芸術家たちからの寅年年賀状などを展示します。

入館料：大人 300 円、高校生 200 円、小中校生 100 円

ご来場の際は感染症対策としてマスクの着用、手指の消毒、検温、他の方と距離を取る等のご協力をお願いいたします。なお今後の状況によっては予定されているイベントを中止する場合があります。



フラワー長井線長井駅より徒歩13分、あやめ公園駅より徒歩6分

お問い合わせ

長井市十日町1-11-7 / Tel: 0238-88-4151  
[www.bunkyounomori.com](http://www.bunkyounomori.com)



文教の杜ながい  
 Bunkyounomori Nagai